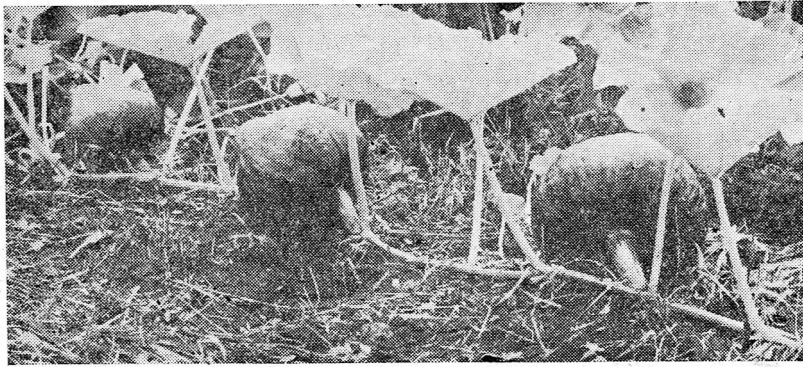


の内はできる限り腋蔓は摘除する。とくに着花した節から出る蔓を取り去ることによる結果率が良くなる。

**施肥** 南瓜の吸肥力は強いもので、多肥栽培とくに窒素を多用すると、茎葉のみ繁茂してなりも悪く味も出ない。従つて磷酸加里を十分考慮に入れて施用すべきである。堆肥は畑の肥瘠によつて加減すると良く、多施するとどうしても味がおちるようである。人糞、化学肥料は全部を基肥として施用せず茎の伸長等を考慮に入れて第一番花の開花前くらいまでに追施するのが良い。

**施肥方法**は全面、条、鞍に施肥方法等があるが、鞍が一般的で、直径二寸くらいの深さ五寸くらいの穴を掘りこれに一貫匁くらいの堆肥を入れ、魚粕化学肥料を施して土を入れ、良く混ぜふみかためて高さ二〜三寸くらいの饅頭型に土をもり、その上に種子を下るすのである。農場における施肥の一例は、前記間隔の鞍で反当り堆肥一〇〇貫、魚粕二二貫、硫酸六貫、



美園デリシヤス南瓜の結果状況

過石八貫、加里二貫で化学肥料の三分の一くらいを追肥としている。人工煤助 前にも述べたように、蜂が少なくなつて来た上に、初期の開花時に雄花が少ないので花粉を煤助してやるのが大切である。煤助の方法は雄花の花弁をとり去り雌花の柱頭に万遍なくつけやれば良い時間は早朝から八時頃まで受精率が良い。とくに本種はこの煤助の成否が収穫に大きく響くので励行され度い。開花中の雨は授精率をきわめて低下させるものであつて、開花前日の雌雄花の蕾に袋を掛け降雨中授粉して直ぐ雨に当てぬように袋をかけても着果率はおちる。雨の日はできるだけ丁寧に授粉して紙等をかけ、花が雨に流されぬようにすることも大切である。

**收穫貯蔵** 本種の完熟日数は開花後四五〜五〇日くらいか、札幌附近を例にとると八月十日前後までに開花した花は十分完熟する。

貯蔵に當つては、本種は幾分貯蔵力が弱い方に属するから、十分完熟したものを霜のおそれのない限り収穫を延ばし、打傷等を与えないように注意して採取し、霜や雨を防ぎ成るべく陽当りにさらして乾燥すれば良く十二月一杯は貯蔵できる。

(筆者は雪印種苗藤の澤育種場在勤)

## 輸入りんご新品種の果實の特性について

奥井安吉

まえがき

米國スターク種苗会社で発売されて、りんご新品種について「果実日本」四巻七号に紹介されたのは、戦後間もないころでありその中のレッドゴールド Red Gold のときは、本邦りんご栽培家や苗木商の一部の人達から垂涎的となり深く関心を持たれ、なんとか輸入したいものといろいろ手を廻し、骨を折つた人もあつたが、當時まだ連合国の占領下で、為替その他の都合で輸入もできず、進駐軍を通じてスターク会社への紹介に対する返事も、国外への輸出は百本以上でないと送れぬとの事で、わずかにカタログで果実の絵や特性を知る程度にすぎなかつた。当時カタログによる Red Gold は一本二ドル七〇セント(邦貨九百七十円)で百本輸入するには九万七千円を要し、その頃の国民生活は食糧及びその他の物資不足の時期でとても不可能なことであつた、その後昭和二十五年青森県立りんご試験場で育成の新品種と交換条件でスターク会社より穂木を輸入したのが最初であると聞いているが、山形県でもその年の秋、知事村山道雄氏が米國の他方行政

視察に渡米されるに当り、特にりんご新品種の輸入方依頼したが、僅か三カ月の滞米期間でありあまりあてにできなかった、知事は渡米後山形県米沢市出身で永年シカゴ市で美術商を営んでいる大竹丑太郎氏に万事依頼して来たから必ず送つてくれるであろうと帰朝後語つていたが、その後も再三連絡してなんとか穂木でもよいかから輸入方を依頼したところ、いろいろ手をつくされ最後に氏自身がシカゴ市の自宅の庭に植えることにして、当方で希望した四品種を三〇ドル分スターク種苗会社に注文した結果 Red Gold 四本、Stark Earliest 三本、Jonared 二本、Lodi 二本、計十一本の苗木を手に入れた、その後直ちに航空便で山形県立農業試験場宛に転送して下され、昭和二十六年三月十一日羽田空港に到着、農林省動物植物検疫所で検疫後、三月十四日無事山形県農試本場に到着した。嚴重に木箱で荷造されなんらの損傷もなく、二年生の優良な苗木であつた。丁度時期的にも早春の植付適期で直ちに他の果樹より五十五メートル以上隔離したところに入念に植付、一方年の嚴重な隔離栽培を行った。一方苗木の枝先の一部を高接して果実の特性調査を行

うことにした。昨秋が丁度輸入後三年目であり、高接した樹及び苗木の一部にそれぞれわずかであったが結実を見たので果実の特性を調べた、その概略はつきのごとくである。

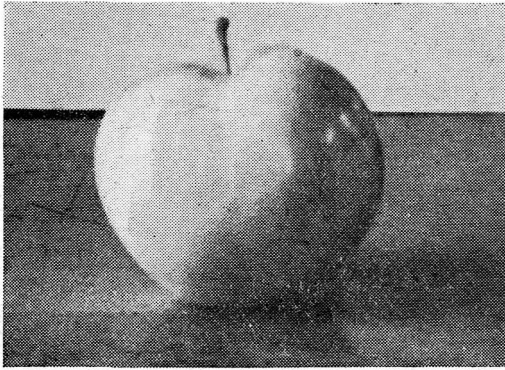
### 果實の特色

**オスタークアーリエスト (Stork Earlist)**  
 スターク会社のカタログによると名前のごとく、あらゆるりんごの中で最も成熟が早く、晩生種の桜桃の時期に着色すると紹介されているが、当場で昨年七個結実を見たのでその特性を調べたが、大いさでは平均四十五匁くらいで大きいのが六十匁、小さいのは三十五匁で丁度手頃の大きさと思う、形は扁円で円錐形をなし、いくぶん角張り僅に五角形を呈す、肩も少し張る、梗窪はやや広く深さ中くらいで周縁は平滑、果梗は短く細く緑色に多少褐色をおび棍棒状を呈し、萼筒は先が開く、果皮は厚く強靱で果粉少く蠟質物多く光沢あり、果点はやや大きく明瞭で中央から上は少く萼部に多い、果色は白黄色の地に鮮紅色の縞が陽光面に明瞭に出る、果色の見た感じは鮮明に出た倭錦の陽光面によく似ており、紅魁より着色良好で外観美麗、但し高接した樹に結実した果実は枝が徒長している関係が着色不良であり感心した果色を示さなかつたが、幼木に結実した果実は着色鮮明で美事であった、果心は中ぐらいで心室は開く、果心線は円錐形をなす、果肉は黄白色で少し粗く漿液やや少し、酸も多少強いが甘味及び香氣に富み、早生種としては従来

あるものより遙かに品質優良である。熟期は山形で七月十五日頃から採取可能で七月二十日前後が最も適期である。日持も十日くらいは十分保ち輸送にもたえる、但し早取りをすると酸が強し品質不良である。以上の特長より見て本種は従来からある紅魁にくらべて品質優良で着色もよく、同時期に早取りした祝より遙かに味もすぐれており暖地及び都市近郊の早生種としてはいままでの既成品種より遙かに良い品質を持ち、従来この時期に良種がないだけに將來市場性をもつ有望種ではないかと思う、特にお盆の時期に成熟するのでお供物として需要が多いと思われる。また大いさも適当で着色種であり、青りんごより大衆受のするりんごでないかと考えられる。

### ロジ (Lodi)

本種はニューヨーク農試でモントゴメリ

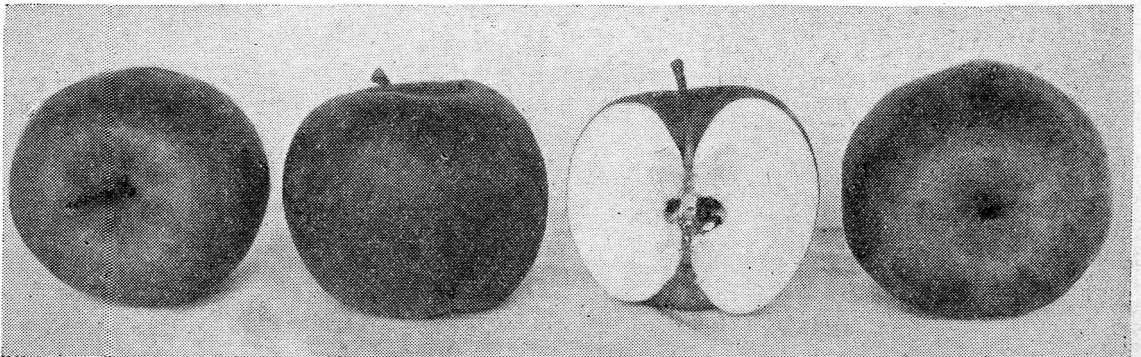


ロジ (Lodi)

に黄魁を交配して育成した新品種で米國でロダイともいわれている由、一名 Early Golden と言われるとおり、外観は Golden Delicious によく似ている、形は円錐形で等円、大きさは大きく、一個九十匁くらい、小果で六十匁、大果は百匁以上となる、外観は立派であるが、やや大きなきらいがある、梗窪は広く浅く周縁は平滑萼筒は広く深い、果梗は太く長く緑褐色を呈す、萼筒は半開で果皮厚く強い、果粉も多く蠟質物にとむ、果点は大きくまばらで明瞭萼部に多い、果色は黄青色で完熟すると黄金色となる、果心線は大きく円錐形をなし心室は開く、果肉は青白色で密度中、漿液比較的小く、酸やや強く品質は上、熟期は七月下旬から八月月上旬で多少黄金色を呈した時がよい、祝より一週間前後収穫期が早いのが早取りした場合酸味が強いので適期採取が肝要、収穫が遅れても粉質となる。適期に採取したものは祝の甘味に酸を加えたような味で、甘味適和し黄魁より遙かに優良である、日持もかなりよい、ただ青りんごであり祝の熟期にやや近いので寒地で生産されたものが暖地の祝と市場で同時に出荷され、競走となつた場合、市場性が問題だと思ふ、しかし果実が大きく外観が立派なので、お盆のお供物として都市近郊や暖地では Earliest と同様有望であると思われる。

### オナム・ゴールド (Red Gold)

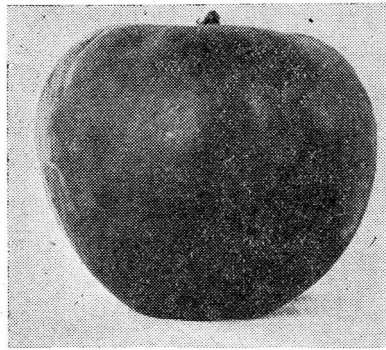
輸入りんごの中で最も注目されている新品種で米人 F. A. Scheil 氏が Golden Delicious の実生から選抜されたものだから、スターク会社のカタログによると七、



レッドゴールド (Red Gold)

五〇〇ドル(邦貨二百七十万円)という莫大な権利金を払って買取つたもの由で、専売特許を得ている自慢の品種である、当場所樹園で高接をして三年目の昨秋初成りしたのであるが、わずかに二本の主枝に高接したが、他の品種は二―三個乃至数個結実したにすぎなかつたが、本種は十五―十六個結実を見た、従つて Golden Delicious 同様結果期が早く豊産の品種と思われる。果実の大きさは中乃至大で一個重量が六十匁から八十匁くらい、高さ七・八横径八・九種側径八・七種で形状は扁円形、外形は既成品種としては以前多少作られていた玉散(Grimes Golden)によく似ている、頂部(萼部)が尖らず平である、梗窪は広く深く正形で周縁は滑か、萼窪も広く深く多少ヒダを生ずる、果梗は太さ中ぐらいで長く赤褐色を呈し棍棒状をなす、果皮は厚さ中ぐらいで強く滑かで光沢あり果粉もある、銹の発生は Starking Delicious 同様少い、果点は大きく明瞭で上部及び中央部は少いが萼部に多い、果色は最初鮮紅色に色付き次第に濃紅色となり全面に拡がる、紅玉よりいくぶん橙紅色を呈し熟期になると Starking Delicious の着色によく似て濃紅色となる、果心は小さく果肉は黄白色で密度中斐液多く甘味強く肉質やや粗、蜜病も生じやすい、果心線の上層は下部の果肉にわずかに桃色を呈するものもある、食味は Starking Delicious に似ているがやや水分多く甘味強く糖度一四・六度あるものもあつた、酸味なく香氣は Starking Delicious より劣るが Golden Delicious 程度の香あり品質優良で完熟した果実の味は Starking Delicious 級である、九月に成熟する品種と

しては旭より遙かにすぐれており、この時期のりんごとしては白眉で将来の市場価値も大いに期待し得ると思う、九月中下旬に成熟する、九月上旬にすでに着色するがあまり早く採取したものは Starking Delicious 同様澱粉臭あり品質悪く、早出しはかえつて名戸を落す、逆に十月上旬まで樹上におくと完熟してすぐれた品質のものが得られる、貯蔵力も Delicious または紅玉くらいの貯蔵はきくものと思う、十月八日採取したものが二月五日現在で果実を見る



ジョナレット (Jonared)

と表皮にわずか皺を生じているにすぎず、あまりボケておらぬようでゴム病やヤケ等の貯蔵病害も見受けられず、上手に貯蔵すれば三月ころまでは持つのではないかとと思われる。

#### ジョナレット (Jonared)

本種は紅玉の枝変りで樹姿もほとんど紅玉と変りなく、特に苗木の中はほとんど區別することができないくらいである、カタログの紹介によるとスターク会社では原木に二、〇〇〇ドルの権利金を要したと言っており、果色は縞がなく明るい赤色で全面

に着色し、普通の紅玉より二週間ほど早く着色成熟し、落果も少く豊産で長期貯蔵に適し生食、料理、サイダーとあらゆる用途に適すると書いてあるが、当場では本年わずかに三個しか結実しなかつたために明瞭な特性を調査し得なかつたが果実の大きさ形状はほとんど紅玉と同様で一個四十五匁で高さ六十三種横径七十三種側径七十六種で円錐形をなす、梗窪は中ぐらいで深く、萼窪はやや狭く深い、果梗も色、形共に紅玉と差違なく、果皮は厚さ中ぐらいで強く滑かで果粉もかなりある。果点は灰白色で小さい、果色は全面鮮紅色で紅玉とほとんど変りなく、着色がいくぶん早いように思われる、果肉は黄白色でやや密で甘酸適和し香氣もあり、紅玉とほとんど差がない、銹及び黒点病も紅玉とほぼ同様で冒されやすく、薬剤散布が不十分な時は黒点病及び煤病の被害も多く、貯蔵力は不明だが採取時の状態から見て紅玉と変りないと思う、成熟期は山形で九月下旬から十月上旬ごろである、初成りでしかも僅かしか結実を見なかつたのはつきりわからないが、スターク会社のカタログで紹介しているほどには着色も早くないが着色の早い紅玉種と考えられてよいと思われる。

#### あとがき

以上の Stark Earliest, Lodi, Red Gold, Jonared の四品種を昭和二十六年春高接して昭和二十八年夏及び秋に各種を通じて約二十個あまりの結実を見たのであるが、従来本邦では苗木商によりカタログの紹介のみで実物について果実の特性を報告したものがないのでここに既成品種とくらべて紹介した次第です、しかしいずれも初成りの果実の調査であり、これを以て正確な品種

の特性であると断定するのは早計と思うが、これら品種の苗木が現在相当高値で販売されている実状なので新品种に関心を持つておられる方も多く、それらの人達にいくぶんでも参考になればと存じあえて報告したわけですが、今後は年とともに各地で結果してその良否は自ら決定されると思うが、新品种が市場性を持つまでにはある程度量的にまとまらないと価値も認められないだらうし、それにはかなりの年月を要するものである、さらに本邦育成の新品种及び輸入新品种が既成品種にどの程度喰込んで行くかは今後の問題だと思ふ、ただ筆者自身主観的立場からこれら四品種の果実の特性調査の結果から見て将来性を述べると、この四種中 Stark Earliest 及び Red Gold の二種が有望でないかと思ふ、その理由はこの時期に既成品種でこれらの品種よりすぐれた品質のものがないからである、Stark Earliest はりんごの走りとして外観も良く、桃の中生種、梨の極早生種と同時期に成熟するので前述のごとく、近くに消費地を持つ都市近郊や東京その他大市場に近い地方に植えれば一層有利に販売される品種と思われる、Red Gold は祝と紅玉の中間品種として従来旭の時期に成熟し、しかも品質の点で Starking Delicious にも匹敵する品種なので中生種が有利に販売される地帯に特に有望だと思ふ、Lodi も早生で大きくみごとな果実であるからお供用として悪くない品種なので、祝の最盛期前に出荷し得る地帯に特に有望だと思ふ。

以上米国より輸入したりんご新品种四種について初成りした果実の特性調査の概略を紹介した次第です。

(筆者・山形縣立農業試験場技師)